



平成23年5月6日（金）発行 【隔月（年6回）発行】

発行部署 : ソリューション営業本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4620
発行責任者 : 白土 雄二郎
お問合せ窓口 : 古田 泰幸

第93号

【目次】

1. 白土新部長就任のご挨拶
2. ソリューション営業本部組織改正
3. 倉庫でのLED照明の採用と自動点灯・消灯システムの構築
4. 震災の物流への影響
5. 2010年度「物流効率化」提案実績
6. 場所自慢 海外編④ ～インドネシア～
7. 「グローバル要員育成プログラム(初級)」現地研修参加レポート【第1回】
8. 「物流改革の具体的手法」セミナーレポート



このたびの<3.11>東日本大震災により犠牲になられた数多くの方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された地域の方々に心よりお見舞い申し上げます。

当社グループでは震災直後から被災場所への救援活動はもとより、三菱ケミカルホールディングスグループ並びに各お客様から様々な緊急支援要請をお受けいたしました。社会的に物流機能が大きく混乱している中で、かかる事態を自らの危機と受け止め、正に一丸となり”強い結束力”で定常業務を滞らせることなく、これらの要請にも迅速、的確に対処してまいりました。引き続き被災された方々へのご支援と被災地の復旧、復興に向けた様々なご要請への対応に全力を尽くしてまいります。

福島第1原発事故の影響や東日本での電力不足問題、幅広い業種での生産活動の長期停滞など、この未曾有の危機を皆様とともに力を合わせて乗り越えてまいりましょう。被災地の一日も早い復興を社員一同心よりお祈り申し上げます。
取締役社長 白石 秀典

1. 白土新部長就任のご挨拶

東日本大震災により被災されました皆様には哀心よりお見舞いと、一日も早い復興をお祈り申し上げます。さて、私ことこのたび人事異動によってソリューション営業部長に就任しました白土(しらつち)です。

ソリューション営業部は今回のソリューション営業本部組織改正により、お客様のご要望にフレキシブルにそしてスピーディーに対応できるよう、また既存のお客様へのサービスアップ、新規営業開発に向けた取組みを一層強化しています。当社の中期経営計画『READ2012』では、最大限の顧客満足を図ることを目的としてスタートしました。

お客様からの要望に対応するためにも、当社の物流戦略武器を明確化し、より一層充実させたい所存です。今後も『信頼されるソリューションプロバイダー』として積極的に取り組んでまいりますのでご指導宜しくお祈り申し上げます。頑張ろう日本！

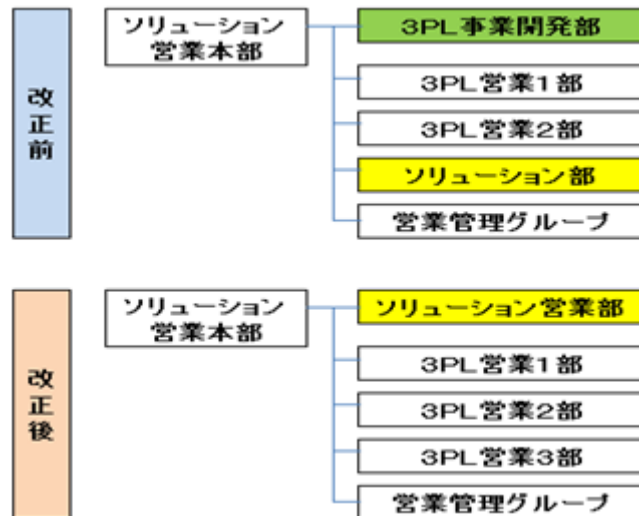


ソリューション営業本部
ソリューション営業部長
白土雄二郎

2. ソリューション営業本部組織改正

当社では4月1日付で組織改正を実施し、私どものソリューション部は3PL事業開発部と統合し、ソリューション営業部となりました。これは、①全事業分野における新規顧客の営業開発と事業化検討を一体的に進め、お客様へのタイムリーな提案を促進すること、②各事業部門と一体となって既存のお客様のフォロー強化に注力すること、を大きな目的としています。

新組織のもと、今まで以上にお客様の物流効率化にソリューション営業部一丸となって取り組んでまいりますので、今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



3. 倉庫でのLED照明の採用と自動点灯・消灯システムの構築

LEDによる照明が省エネルギーの観点から注目を集めています。当社鹿島支社でも倉庫の一部にLED照明をテスト的に導入するとともに、三菱化学社・三菱化学エンジニアリング社と協同で、人感センサーによる自動点灯・消灯システムを構築中です。これはLED照明の「瞬時に点灯できる」という特長を生かし、入出庫作業の状況に合わせて点灯・消灯することで、より一層の電力削減を目指すものです。

実証実験により①水銀灯からLED照明への変更で消費W数の75%削減、さらに、②常時点灯から自動点灯・消灯システムへの変更で点灯時間の60%削減、①②合わせて消費電力の90%削減が期待できることがわかりました。当社では今後も実証実験の結果と最新の技術を見定めながら、積極的に省エネ活動を推進してまいります。



4. 震災の物流への影響

東日本大震災では交通インフラがダメージを受け、被災地へ支援物資を届けることが困難になっています。被災者が求める物資の上位には「飲料水」があがっていますが、高速道、港湾、滑走路が被害を受けたために、陸海空の物流が万全に機能せず、物資を思うように運べないでいました。ニュースでは、陸路が寸断されているため、被災地近くの救援基地からヘリコプターでピストン輸送している映像が流れていました。震災が発生するたびに「物流」にフォーカスが当たりますが、物流に携わっている者としてはもっと効果的な輸送を普段から考えておく必要があると感じました。例えば、先述の水の運搬は被災直後にはヘリコプターが有効ですが、道路復興後はローリーだけでなく、20ftコンテナのインナーバルクに水を充填して輸送するのはどうであろうか。使える車輛が多く大量輸送には一考の価値があると考えます。

また今回は、主要電力プラントが被災した影響で電力不足が懸念されています。物流として今までの取り組みに加え更なる節電、省エネ対応を図っていく必要があります。例えば、蛍光灯の削減、LED電灯への変更、ピッキング作業時間短縮に伴う時短、急ブレーキや急発進を避けた省エネ運転、更には、ロットアップや同一納入先への多頻度納入削減等お客様と一体となり、直接的なことだけでなく間接的に効果が見込めることも含めて進んで取り組んでいくことが大切と考えます。

5. 2010年度「物流効率化」提案実績

私どもが担当しました2010年度の「物流効率化」の提案実績は約15件になります。

昨年度の特徴は一昨年までに比べ、「構内・倉庫作業」を調査対象とする割合が高く、7割の案件で検討を実施しました。作業員の規模は5～10名の場合と30名以上になる場合の大きく分けて2種類あり、前者は倉庫作業、後者は工場での原料工配～製品梱包・倉庫作業まで一連の作業を対象とするケースがほとんどでした。規模の違いはありますが、双方に共通する依頼部署の声(悩み)は「現場が観えない！」というものでした。依頼者の視点から観ると、自社の物流管理者や3PL(元請け)会社と実務者の繋がりがよくわからないために、「必要」な作業も「無駄」な作業に観えてしまうことがあるようです。お互いの誤解を解き、実務が円滑に進むように当社では管理者・実務者双方にヒアリングを行い情報を収集・整理すると合わせて、必ず検討結果について双方と討議を行い、お互いの意識を統一する場を設けています。

2010年度の主な「物流効率化」の提案事例

	提案先	物流規模		分野			効率化率 (ロス率)	検討人数	検討期間
		工場	倉庫	輸送	構内	仕組			
1	A化学メーカー-A事業部	1			○		19%	4人	4か月
2	A化学メーカー-B事業部	1			○	○	7%	3人	4か月
3	A化学メーカー-C事業部	1			○		5%	3人	5か月
4	D化学メーカー	1		○			5%	5人	2か月
5	E樹脂メーカー	1	6	○			6%	3人	3か月
6	Fフィルムメーカー	1			○	○	11%	3人	3か月
7	Gフィルムメーカー	1			○		10%	2人	4か月
8	H化学メーカー	1			○		38%	3人	4か月

効率化を提案する事も大切ですが、提案した内容を実行し効果を出すためにも管理者と実務者が情報の共有を行い、同じ目標を持つことが大切と考えます。

お客様と当社が同じ目標を共有し、それが達成できるよう協力してまいりますので、今後とも当社を宜しくお願い申し上げます。

6. 場所自慢 海外編④ ～インドネシア～

当社はインドネシアに2社の現地法人(PT.Lintas Buana Kasei:1996年設立、PT.Dia Logistics Indonesia:1997年設立)を設立し、陸上輸送、構内作業、倉庫業務、輸出入業務を行っています。両社とも本社はメラク、支社はジャカルタにあり各業務を行っています。

インドネシアは人口世界4位(約2億4,000万人)、また世界最多のイスラム人口を抱える国です。そのため、飲食物や娯楽などで制限が多く、日本人にとってはやや不自由を感じることも多々ありますが、一方で現地の人々にとっては「おしゃべり」が大きな娯楽になっており、ある意味では我々より心豊かな生活を送れているのかもしれない。

ちなみに、国民性は一般的に温和で親切ですが、やや興奮しやすい一面も併せ持っているように思われます。一方、近年の経済成長は目覚しく、物価は右肩上がり、また急速な車の普及(日系メーカーのシェアが圧倒的に)インフラ整備が追いついておらず、都市部では大渋滞が慢性化しています。トラック・バス・電車などは日本で引退した物も活躍しており、日本語表記が残ったままの車両もよく目にします。

現在、インドネシアでは中華料理をはじめ和洋食いずれも食べることができますが、現地の人々はよく、辛いインドネシア料理を不浄の手とされている左手は使わず、右手だけで食べています。私も何度か試みたことがありますが、米がポロポロしていることもあり、片手だけでうまく食べることはできませんでした。しかし、味はなかなかおいしいです。

インドネシア(バリ以外)は、観光地としてはマイナーな部類に入りますが、常夏で、多種多様な民族、宗教、食物、また貧富の差、ルールがあつて無いような独特のゆるい感じなどが雑多に入り混じった、これぞ東南アジアと思わせてくれる国です。メジャーな観光地などにはない良さもたくさんありますので、是非、一度は訪れてみてください。

インドネシア語の一例

- ・スラムシアン→こんにちは
- ・トゥリマカシ →ありがとう
- ・ハティハティ →気をつけて



メラク



ジャカルタ

7. 「グローバル要員育成プログラム(初級)」現地研修参加レポート【第1回】

「グローバル要員育成プログラム(初級)」は、三菱化学グループの若手社員を対象とし、本年1月より開始された約半年間の教育プログラムです。2月には一週間のスケジュールで、シンガポール・インドネシアにて現地研修を行いました。本号から3回に分け、現地研修での体験から感じたことや、学んだことについてお伝えします。

16名の受講生で出発した本研修ですが、限られた時間の中で私達は何を学ぶことができるのか、個々に課題を持ちながらもそれぞれが求めた情報にはある共通点がありました。日本と現地の人々の違いはどこにあるのか、文化・言語・習慣・人間性の違いといった部分がどのように仕事に影響するのか。どのような問題があり、どう対応すべきなのか。皆がそれぞれの専門とする分野における実態を知ろうと、現地スタッフの方々と行ったディスカッションでは真剣に質問していました。しかしこの後、ハンマーで頭を叩かれたような心境に陥るとは、まだ誰も(少なくとも私は)想像していませんでした。(つづく)



8. 「物流改革の具体的手法」セミナーレポート

去る2月14日に「物流改革の具体的手法をお教えます」と称するセミナーが開催されました。このセミナーの特徴は、実際に実施した手法から成功事例を抽出して紹介しているため、より具体的な内容とされているところでした。

改革のテーマとして「クレームの削減」「在庫金額の削減」「ピッキング効率の向上」「配送費の削減」の4つが紹介されました。この中で印象に残ったのが「クレームの削減」です。「クレームの削減」は物流が抱える大きな課題の一つだと言えます。しかし、その目的は「荷主から信頼の獲得」であり、それにより業務安定を図るためと考えがちではないでしょうか。

本セミナーではクレームは作業効率にも悪影響を及ぼし、結果として物流コストの増加を招いているとの観点から、「クレームの削減」の必要性を説いていました。

ただし、取り組みは簡単なものではありません。クレームの元凶がどこにあるかを徹底的に調査する必要があります。「人の問題」「仕組みの問題」「環境の問題」といった様々な角度から検証し、改革を進めていきます。そのためには当然現場を巻き込んだ活動にしなければ価値あるアイデアは生まれないので、関係者を同じベクトルへ向ける強力なリーダーシップが求められます。

また、物流改革を進めるには一人一人の意識改革が重要となります。人の考え方というのは急に変わるものではありませんから、地道な取り組みが重要であると再認識させられる内容でした。

芝のそよ風

ソリューション営業部 古田 泰幸

東日本大震災から早2ヶ月が経とうとしています。交通機関やインフラが遮断され、被災地への物資等の供給もままならず被災者の方々は大変つらく苦しい思いをされたことと存じます。

改めて、物流の重要さと大切さを痛感した次第です。今後もいつ、どこで、何が起こるか分かりませんが、あらゆる可能性を想定しながら物流会社として社会・地域に対して果たすべき役割と責任を追究していかなければならないと思います。これは一物流会社だけで出来ることではありません。

国、地方自治体、トラック協会等の業界団体と一体となり考えていかなければならないものです。その一翼を担える会社でありたいし、日本の物流が世界の物流の手本になれることを願います。